



自治会ニュース in 尾張旭市

身近な自治会・町内会ニュースをお知らせください

平成27年4月
第13号

発行 / 尾張旭市 市民活動課 〒488-8666 尾張旭市東大道町原田 2600-1
URL <http://www.city.owariasahi.lg.jp/> E-mail siminkatudo@city.owariasahi.lg.jp
電話 (0561)76-8126(直通)、(0561)53-2111(代表) 内線 371,372
FAX (0561)52-0831

特集

1 自治会等活動促進助成事業の中間報告会 & 交流会 がありました

学校法人菊武学園 名古屋産業大学 学長 伊藤雅一 氏

本年度は10団体という多くのご参加をいただいたこと、そして各事業が着実に実施、継続されていることに対して、市も喜んでいいることと思う。そして、私自身も審査等に関わることができて良かったと感じている。

社会での経験豊富な皆様の発表は、大変落ち着いた雰囲気でも分かりやすく、そして非常に安定感のある発表であった。今回は初めてDVDを用いた発表もあり、卒業論文の発表やプロジェクト研究の発表を行う大学生、高校生に、皆様の発表を参考にしてみたい内容であったと感じている。

前回のプレゼンテーションからの内容を通じて気付いた点は3点あった。

1つ目は、中間報告会というよりも完了報告会の印象を受けた。多くの自治会では、様々な事業を行うに当たって、担い手不足もあって事業の計画すら難しい状況の中、各事業を着実に推進されてきた皆様の行動力・実行力に敬意を表したい。

2つ目は、自治会の内外との組織との連携を図ることは重要であるということ。例えば、女性の参画が見られるようになった事、あるいは子ども達の参画、さらには自治会レベルから町内会レベルへのブレイクダウン(情報伝達)が機能し、これまで以上に住民の皆さんの参加を促すことができたこと。この点は、担い手不足解消のヒントとなってくるものと考えており、多くの自治会等が参考となる点でもあると考えている。

3つ目は、各申請団体は3年1サイクルの助成制度を上手く活用されているということ。1年目は導入、2年目に定着、3年目で完了を意識して事業展開されていると感じた。特に事業を継続している団体においては、他自治会の参加・交流等、自治会の活動の幅を広げ、充実させており、事業に発展プロセスがあることを皆様から教えてもらった。ぜひ、市もこれだけ素晴らしい事業を多くの他自治会等に伝えてほしいと思う。

特定非営利活動法人 ボランティアネイバーズ プロデューサー 桜井温子 氏

報告を聞かせていただく機会が今年度で3回目となるが、皆様の意識の高さには本当に感動している。有意義な時間を過ごすことができたと感じている。少子高齢化の中で、女性も参画することが重要であり、一人一人が自発的に主体的に活動することをサポートしている立場であり、自治会活動においてもやはり重要となるのは、リーダーシップであることを再認識した。また、皆様の気持ちの入った発表にパワーを感じるとともに、尾張旭市は安心して暮らせるまちであり、高齢化を感じさせないまちであると思った。

そして、今年の中間発表会では、女性の方が前に出て発表したり、防災ベストを着用した女性の防災委員さんが増えていたりなど、女性の参画が特徴的であると感じた。女性の私も非常に勇気をもらった。

活発な活動がされている地域において、強いリーダーシップを持った方と周りの住民も一丸となっている姿に対して行動の大切さを感じ、自分も参加したい気持ちになった。また、情報共有の大切さについては、ホームページ作成を行うなど、皆様も実感されていると思っている。おしゃべりによる情報共有も非常に大事であるため、口コミできるような、交流できるような機会を設けているところにすごく感心した。大いに活用して今後の発展を楽しみにしている。

尾張旭の自治会等はお互いに学ぼうとする気持ちが強い地域であると感じられるため、色々な活動に参加しやすいまちであると思っている。また、若い世代も多く、市の助成金を利用しながら公共的な活動・地域づくりを精力的に実施されていると感じられた。今後も皆様の活躍を期待している。

平成26年度

中間報告会 & 交流会

2月7日、中央公民館にて、平成26年度自治会等活動促進助成事業の中間報告会兼交流会が開催されました。今年度、自治会等活動促進助成事業として選定された10の自治会等の団体から、事業実施(実施中)の報告があり、参加された皆さんは熱心に耳を傾けていました。

また、交流会では、各発表団体のブースを3つのグループ(交流関係・防災関係・防犯関係)ごとに設置し、各ブースにおいて質疑応答や助成事業を通じて得たノウハウ等を伝えたり、歓談も活発に行われたりと、様々な団体間で交流を深めていた。交流会参加者は自由に移動し、興味のあるブースで話を聞けるため、複数のブースで話を聞かれている方もいた。また、会議室中央にアンケート及び自由意見を載せるブースを設置したことで、助成金事業以外の話をするきっかけにもなりました。



パークシティ三郷

自治会パークシティみんなそろってふれあい事業

新しい地域づくりを目指して、子ども会、マンション管理組合、自治会が一体となって、クオリティ大会、夏休みラジオ体操、防災訓練に取り組みました。日頃は挨拶だけのお付き合いでしたが、子供から大人まで多くの参加があり、楽しい雰囲気の中、コミュニケーションを図ることができました。次年度へ繋げていきたいと思えます。



松ヶ丘町内会

地域自主防災組織体制の整備と確立

災害発生時に“近助”(声掛け、連携、助け合い、情報の収集)がスムーズに行われるよう、今年度は避難行動要支援者避難シート等を作成しました。AEDの操作実技も取り入れた防災訓練を実施しました。また、町内会全世帯に、家具転倒防止やガラス飛散防止方法の手順書を配布するなどして、災害に強い地域づくりをしていきます。



旭丘連自治会

ふれあいスポーツ事業

昨年度に引き続き、地域連帯の広がりや強まりとふれあいスポーツ事業の定着を目指して取り組んできました。森林公園や旭丘小学校において、ふれあいハイキング・クオリティ・健康フェスタを開催し、たくさんの笑顔に出会いました。参加しやすい時期に誰もが参加できる事業を展開していき、活動の幅を広げていきます。



桜ヶ丘自治会

備えて繋がる防災コミュニティづくり

自治会内の町内会毎に自主防災組織を立ち上げ災害に備える活動がスタート。県消防学校防災教育センターでの地震・煙道・消火体験、市の出前講座、家具転倒防止講座、桜ヶ丘調整池・北山公園の応急給水拠点見学、AEDを使った救命講習等を実施しました。また、防災ニュースを発行、全戸配布する等情報発信にも力を入れています。



大久手自治会

地震防災対策推進事業

大人も子どもも真剣に街歩きをして危険個所の調査を行い、「大久手探検・街歩き防災マップ作り」を実施しました。また、避難行動要支援者の支援プラン見直しのため、交流会を開催し、防災頭巾づくりに挑戦しました。さらに防災訓練を実施し、避難時要支援者の安否確認・避難支援や AED を使った救命救急訓練と身近なものを使った応急手当を行いました。



本郷ヶ原連合自治会

本郷ヶ原連合自治会専用ホームページ作成

タイムリーな自治会情報の展開、幅広い世代の自治会への参画、緊急時の情報伝達、回覧用紙の削減、自治会長・町内会長の仕事軽減を目的に、ホームページ作成をしました。地域住民への情報展開がスムーズに！地域の情報を共有することで、住民同士の話題が豊富に！今後もホームページを活用し、地域のつながりが広がるよう、工夫をしていきます。



旭台自治会

“サロン”活動による「高齢者交流・支援」の事業

旭台は高齢化率が30%と高く(市全体は22%)、集会所を気軽に集える「居場所づくり・友達づくり」も考えた高齢者情報交換会「交流サロン」を進めています。また、地域の高齢者が健康について悩みを話し合い、認知症や熱中症について学ぶなど、健康意識を高める「健康サロン」活動も開始しました。近隣との協働参加を進めています。



山の手自治会

地域防犯活動を基盤としたまちづくり事業 - II

日常的な防犯活動や地域ぐるみの子供の見守り活動等のほか、今年度は、防犯カメラの設置と防犯看板の作成設置を実施しました。個人のプライバシーの保護に配慮しつつ、防犯カメラによる、山の手自治会地域における犯罪防止への有効性と事故防止の一助とするために3年かけて検討し、ようやく3台設置することができました。



東栄連合自治会

強固な防犯ネットワークづくり

地域の防犯意識を高め、犯罪の発生しにくい地域にしようと、ショルダーメガホンを活用した夜間防犯パトロールを実施したり、東栄公園の一斉清掃を行ったりしました。3月には、国崎信江氏(危機管理教育研究所代表)をお招きし「防犯セミナー」を開催し、犯罪から自分と家族を守り、犯罪を寄せ付けないまちを目指します。



平子町自治会

平子防犯パトロール 10周年記念大会

平子町住民有志が防犯パトロール隊を設立して犯罪抑止に効果を上げています。今年度は2003年に設立してから10周年の節目にあたり、城山小学校にて記念大会を開催しました。270人の参加があり、防災のDVDの上映のほか、不審者役になった人が、子どもに声を掛ける実演もありました。

3. 今日の発見！あなたの声をお寄せ下さい！

- 健康サロン活動の動画がわかりやすくよくわかった。
- 助成対象事業のプレゼンで承認された場合は、当該年度の当初事業から対象として認めて頂きたい。
- 山の手さんの組織の継続づくりのお話がたいへん参考になりました。65才の人に声かけ(100総員)
- 健康サロン活動は、行政(市役所)の課題であり各自治会への取組み指導が必要と感じる。
- 各町内会、自治会はそれぞれの地域性はあるのですが、自分の地域に取り入れる事も多くありましたので勉強になりました。
- 防犯対策…知らない人を見かけたら声をかける、じーっと見つめる、スーツ姿にスニーカーは注意！！
- クオリティ大会により世代間交流ができること、参考になりました。
- 本地ヶ原がやっておられる様な自治会のホームページは、市のホームページがあって、そのぶらさがりで各自治会のページがあれば良いと思います。
- 防災を始め、先進自治体の取組が参考になったので、我々の自治会は次のテーマに挑戦したい。
- 地域毎の特色があり、すべての地区で活用できないかもしれませんが、助成事業で良いと思われる事業の内容を広報おわりあさひ等の資料で市民又は自治会・町内会へ公表されるとうれしい！（大久手）
- 大変有意義な時間を頂きありがとうございました。他の活動団体の方々とも広く情報の交換が出来ました。
- 毎年町内役員がかわるのでは、完成した組織運営も安定しないので、「松ヶ丘防災委員会」を継続性のある組織として運営していきたいと考えている。どうしたらよいか？
- 他自治会の活動状況がよくわかりました。たくさん参考になる部分もあり、地域にとり入れる部分もあり活用したいと思います。
- 1. 発表時間の拡大 2. 防災の準備に備え、各自治会との交流(地域間)も必要
- 自治会等活動促進助成事業の市の予算を少額すぎる。そして労力がかかりすぎて使い勝手が悪い。
- 助成金のアップにより活動がやりやすいと思います。
- 単年交替制の自治会活動で継続して事業を推進する事が大切ですが、人材確保が難しいのが現状です。
- 防災、防犯ともに着実に内容が充実してきていると感じた。
- 他地域の発表を聴いてかなり参考になる。特に監視カメラの設置について検討したい。
- 交流会 各自治会の内容が大変良くわかり、ためになりました。参考にしたいと思います。



総評：伊藤雅一 氏（学校法人菊武学園 名古屋産業大学 学長）

自治会等活動促進助成金事業は多くの団体から申請がなされると、予算枠があり、1団体当たりの助成金額が少なくなってしまうが、翌年度以降も多くの申請がなされると市は予算面で頭を悩ませるかもしれない。将来的な予算は増える可能性があるのではないかと考えている。

地域づくりのキーワードとして「地方創生」・「公共力」が挙げられるが、その中でも公共力は、決して行政の力だけを示しているではなく、暮らしやすいまちをつくる、あるいは、安心できるまちをつくるのは、地域の皆様の力が重要になってくると考えている。市の活動と地域の皆様の活動が合体して、その相乗効果によって生まれるものであり、その意味において、尾張旭市は公共力の先進的な地域になりつつあると言える。こういった内容を市はシティセールスとしてアピールすることが重要である。

今回は、防災・防犯・交流が主なテーマとなっていたが、これら以外のテーマにも広がっていくことを期待している。